

2009 年度日本交通学会 第 68 回研究報告会概要

2009 年 10 月 3 日～4 日の 2 日間、2009 年度日本交通学会第 68 回研究報告会(大会)が拓殖大学文京キャンパスにおいて開催されました。2 日間で延べ 249 名の参加者があり、統一論題シンポジウム、研究報告、総会と、盛況の中、すべて滞りなく成功裡に終わる事ができました。

以下に、本大会の様子をご紹介させていただきます。

大会初日、開催に先立ち、拓殖大学商学部教授 芦田誠氏から、開催校を代表してご挨拶を頂きました。

今回の統一論題は、「環境と交通」をテーマに取り上げ、①ロジスティクス・物流分野での対応、②自動車交通からの排出抑制、③航空機等の騒音問題、④国際交通分野での政策協調、⑤道路景観や都市景観に関する課題などを論点としました。

午前は、統一論題の主旨に近い論文 3 件の発表がありました。

午後からは、専修大学教授 太田和博氏の司会進行に基づき、前半の部は、(株)日本総合研究所総合研究部門上席主任研究員 下村博史氏、国土交通省政策統括官付参事官 山口勝弘氏、大阪市立大学大学院経営学研究科教授 西村弘氏、東京大学公共政策大学院・大学院経済学研究科教授 金本良嗣氏の各パネリストの先生方からキーノート・スピーチをしていただきました。

1. 「グリーン物流の企業動向 ～企業事例を中心に～」(下村博史氏)
2. 「我が国における交通政策と地球温暖化対策」(山口勝弘氏)
3. 「地球環境問題と交通における自由 –「将来世代への責務」はあるのか? –」(西村弘氏)
4. 「環境と交通」(金本良嗣氏)

後半の部は、奈良県立大学地域創造学部准教授 新納克広氏のコーディネートのもと、前半の部のキーノート・スピーチを受けて、統一論題テーマである「環境と交通」について、パネルディスカッションが行われました。

その後、総会が行われ、2008 年度の会務・会計報告の他 7 件の議題が報告され、審議を経て、すべて承認されました。

総会におけるイベントとして、今年度の学会賞の授賞式が執り行われ、「著書の部」において、一橋大学 根本敏則氏・高崎経済大学 味水佑毅氏・(株)公共計画研究所 今西芳一氏(著書『対距離課金による道路整備』勁草書房, 2008 年 10 月, 256 ページ)が受賞し、宮下会長から賞状と賞金が授与されました。

夕刻から、会場を茗溪会館に移して懇親会が開かれました。冒頭、開催校の拓殖大学を代表して学長渡辺利夫氏からご挨拶を賜り、その後の歓談にて会員相互の親睦を深める事ができました。

二日目は、研究報告の発表が3つの会場で行われました。

第一会場は鉄道、都市交通を中心とした論文6件、第二会場は道路、航空を中心とした論文6件、第三会場は交通行動を中心とした論文3件、計15件の発表が行われ、各会場共、活発な質疑応答が行われました。

終わりに、本大会の準備、運営に多大なるご協力を頂きました拓殖大学芦田誠先生、宋華純先生はじめ、同大学の皆様に心から感謝申し上げます。

(事務局記)

【大会の様子】



開会挨拶(芦田誠氏)



コーディネータ(新納克広氏)



キーノートスピーチ(下村博史氏)



キーノートスピーチ(山口勝弘氏)



キーノートスピーチ(西村弘氏)



キーノートスピーチ(金本良嗣氏)



統一論題パネルディスカッション



学会賞「著書の部」授賞式
(一橋大学 根本敏則氏)



受賞のご挨拶
(右から根本敏則氏、
味水佑毅氏、今西芳一氏)



懇親会ご挨拶
(拓殖大学学長 渡辺利夫氏)